

企業名： 高砂熱学工業

レポート名： コーポレートレポート 2022

### 1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

『環境クリエイター』として、空調設備工場を核とした建物空間を作り上げるワンストップサービス事業の発展、エネルギー分野などにおける事業領域の構築により快適で最適な空間を創り、地球環境保全に貢献していくことを掲げている。成長戦略として、生産年齢の高齢化と生産人口の減少、時間外労働上限規制適用、環境問題への対応などの課題の解決に向けた「T-BASE プロジェクト」や DX の積極的な推進、高砂熱学の環境技術による脱窒素・カーボンニュートラルへの貢献など会社の方針が具体的に明示されており、この会社の未来への目標は容易に理解できる。

### 2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

競争優位性は技術力、顧客対応力、品質、人材の4つに分類してあげられる。技術力については、空調整備に関するエンジニアリングや施工管理の豊富なノウハウを蓄積していることや社会課題解決に資する新技術の開発が強みである。顧客対応力については、様々な建物建設に携わってきた実績と顧客とのネットワーク、解決策を提案する新たな付加価値の創造が強みである。品質については、工期内に最適な空気環境の提供、安全で高品質な施工の実現である。人材については、様々なバックグラウンドを持った社員、豊富な専門技術を有する社員、成長と挑戦を促す企業風土があげられる。創業100年の歴史とそれに伴う技術の度重なる改善は空調設備業界において、広く受け入れられており、そこでの地位は揺らぐことはないであろう。

### 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

前項であげた競争優位性を維持するために、事業基盤の強靱化が図られている。国内事業では、BIM・AI・基幹システムなどのデジタル技術を活用するといったコア事業のDX化を推進し、アライアンス強化のため顧客ニーズにこたえる施工体制を築き、建設設備のオフサイト化、技術工法の開発を推進し、空間設備の設計技術強化や人材育成を行うなど事業の抜本的な改革があげられている。また、国際事業についても、今年度から、「カーボンニュートラル事業開発部」メンバーを国際グループ事業統括部に加え、事業領域の拡大を目指している。さらに、水素やバイオマスのグリーンエネルギーによる環境技術の開発やフロンティアビジネスへの挑戦、老朽化する中小ビルのリニューアルやコンバージョンを実施し、不動産事業の実現も進める。創業からのノウハウも生かしつつ、それに固執せず、現在の状況に合わせた改革を行っていることがわかるので、競争優位性に持続性があると期待することが

できる。

#### 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

「タカサゴ・アカデミー」による研修は職種や階層、目的などにより種類が分かれており、目標とステージに合わせた研修を受けることができ、効率的かつ実践的に知識や技術を学ぶことのできる環境がそろっているといえる。国際事業にも力を入れており、留学の研修もあるため、海外支社とのかかわりができ、国際的な視野を持つこともできると考えられる。また、環境に配慮した取り組みも行っているため、収益を上げると同時に環境も配慮した経営を学ぶことができるという面でも自身の人的資本の価値向上につながる。

#### 5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

まず、カラフルな図やイラストを用いられているので、文章は細かいが、読むことに苦はなかったように感じる。また、自社の強みを上げているだけでなく、成長戦略や未来の目標を示し、強みを現在の状況に照らし合わせて改善しようとする部分があらゆるところに現れていたため、印象が良かった。しかしながら、売上高や ROE、ROA が過去五年間で横ばいであったために、将来掲げる取り組みが期待できる一方で懸念も残った。それに関して、社外取締役三人の対談があり、これに関して触れられていたが、あまり具体性のないものであり、対談の内容が環境重視であることに偏っていたように感じるので、会社が行う成長戦略に対する社外取締役の方々の専門的な意見を聞きたかった。



